

おかちまち たいとう

台東区立御徒町台東中学校 学校だより 第7号

令和6年11月14日(木)

校長 福沢 俊之

TEL 03 (3831) 3787

学校ホームページ



<https://www.taito.ed.jp/swas/index.php?id=1320111>

↑ 更新中

よりよい社会の創り手として

校長 福沢 俊之

「目的」と「目標」という言葉があります。同じような意味に使われる言葉ですが、「的」と「標」の文字の違いに意味の違いがあります。「的」という字は「まと」、「標」という字は「しるべ」とも読みます。したがって、「目的」とはいわば「ゴール」、「目標」は、ゴールに向かうまでの到達点という意味になろうかと思えます。

では、教育の目的は何か。変化の激しい現代社会、ともすれば情報の波に流されそうな今の時代にあって、時折、このような根本的な問いに向き合うことも必要かもしれません。この問いに対する回答として思い浮かぶのは、「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」という教育基本法第一条(教育の目的)の文言です。

教育の目的の一つとして示されている「人格の完成」とは、到達すべきことというよりも生涯をかけて目指していくことのように思います。先日の朝礼で、教育の目的とは「みなさん一人一人の成長を促すこと」と言い換えた上で、「成長とは、学力を身につけること、体力を伸ばすこと、豊かな心を育むこと」であると話しました。そして、教育の目的としても一つ話したのは、「みなさんを平和で民主的な社会の創り手に育てること」です。これは条文にある「平和で民主的な社会の形成者」という文言から引いています。学校を社会の縮図と考えるならば、本校が目指す学校像の1つ「安心してできる学校」を自分たちで創っていくこと、またそうした意識を持って日々の生活を送ることは、「教育の目的」に適うものであると考えています。

また、本校の特色ある教育活動の一つに、ボランティア活動があります。ボランティア活動は、職業体験学習や伝統工芸体験学習と同じように、地域(社会)と直接かかわることのできる貴重な機会であり、「平和で民主的な社会の創り手」の育成を目指して取り組んでいる教育活動の成果検証になると考えるからです。

先月19日(土)に行われた竹町幼稚園の運動会では、用具係のボランティアとして、二十名以上の生徒が参加してくれました。当日渡された演技図を見ながら、臨機応変にテキパキと動く様子を見ていた園児のおじいさん、おばあさんと思われる方が、「中学生、よく動くね。」と話しているのを耳にしました。また園長先生からは「保護者のアンケートに、『うちの子もあのような中学生になってくれたらうれしい』という声が、毎年寄せられている。」という話も伺いました。以前にも、本校の学校公開に来校した小学生の保護者が、「子どもが『あのような中学生になりたい。』と言っていた。」とアンケートに書いてくれたこともあります。地域の小学生や幼稚園児にとって、本校の生徒が目標となる中学生になっているとすればそれは、よりよい社会を創る小さな好循環を生み出していることになると思います。社会に貢献できる学校が地域に方々にとって「誇りにできる学校」であり、みなさんにとっても「誇りにできる学校」になるものと考えます。

地域には、幼い子どもから高齢者まで、いろいろな方々が生活をしています。義務教育においては、体験学習やボランティア活動、地域の行事に参加しながら、誰にもどのような場でも、快く受け入れてもらえるような生徒を育てていきたいと考えています。

令和6年度 文化祭（舞台部門発表会）

●合唱コンクール（ゴールド金賞クラス紹介）



1年4組「心の瞳」



2年1組「HEIWAの鐘」



3年2組「栄光の架橋」

音楽科の先生 から一言

「合唱コンクール」は、準備の段階から、音楽科が関わる部分が多いのはもちろんですが、実は「クラス行事」であって、運動会などと同様に、担任の先生とクラスのメンバーで作り上げる作品である、ということをずっと伝えてきました。その意味では、今回は各クラスの実行委員を中心に、クラスの全員が当事者意識をもって参加することができたという風に感じています。音楽、それも歌を歌うという得手不得手ははっきり表れてしまうけれども「クラスというまとまりとしての作品作り」という感覚を忘れずに、この先も取り組んでいってほしいと思っています。

●演劇部発表



演劇部顧問の先生 から一言

観客を笑わせることができる演目をやりたい!という3年生の強い思いから脚本選びに入りました。6月より稽古をはじめ、9月には江戸まちたいとう芸楽祭に出演させていただきました。どのような演技をすればわかりやすく伝わるか、大道具・小道具を効果的に使うにはどうしたらよいか検討を重ね、今回の舞台ができあがりました。芸楽祭と文化祭、2回の公演では観客の皆様がたくさん笑っていただき、部員の励みになりました。演劇部員たちの思い切った演技に、勇気や元気をもらえたと感じていただければ幸いです。

●吹奏楽部発表



吹奏楽部顧問の先生 から一言

毎年文化祭で演奏の機会をいただき、本当にありがとうございます。これほど多くの方々に演奏を聴いていただくことができる文化祭を、部員たちは非常に楽しみにしておりました。ダンスに参加して下さった『ヤングマン』の方を始め、会場の皆さんが盛り上げてくださって初めて完成したステージだったと感じています。今年度の吹奏楽部の目標は『共存響栄』でした。個性豊かな部員たちが、お互いを認め合い協力し合って活動してきた集大成を感じていただけたら幸いです。